

研究テーマ：基礎・基本の英語力の定着と向上をめざした工夫

所属 高知県立安芸桜ヶ丘高等学校

氏名 藤 本 高 弘

R G S H 2

1 研究の背景

本校は3年前に校名の変更と学科改編した、郡部の小規模な実業高校である。各学年には3クラスの専門科があり、教育課程では英語に関する科目や単位数が少ないように思われる。

生徒の大半が英語に対する苦手意識をもち、基礎学力の格差も顕著である。このような実態を少しでも改善していくために、1年生では習熟度別（少人数）クラスを編成し、基礎学力の定着を目指した実践を行っている。

今回、研究の対象を1年生の情報ビジネス科の英語Ⅰ（3単位）の授業を中心として行い、ここで得られた成果と課題を分析し、本校の生徒たちの学力・進路保障の観点から基礎・基本の英語力の定着と向上に役立てたい。

2 リサーチクエスチョン

英語の基本的な語順（S＋V～）の徹底とフレーズ・リーディングの反復練習を通じた取り組みが、基礎・基本の英語力の定着と向上に対してどのような効果があるだろうか。

3 予備調査

（1）予備調査1〔授業観察の結果〕

クラスの大半が女子という実態があり、授業中の態度や学習に対する姿勢は概して良好である。ただ、音読や発音練習では声が小さく、「元気さ」と「明るさ」に物足りなさを感じていた。

（2）予備調査2〔英語力を示すデータ〕

4月に行われた実力テスト（本校独自）と支援テスト（県下共通）の平均点はそれぞれ44.7点と35.5点であり、また、6月の中間テストの平均は71.5点であった。

（3）予備調査3〔英語授業評価〕

6月の簡単な授業評価では、「授業態度」「授業意欲」「授業理解」「授業スピード」の4項目について6～8割の生徒がプラスの評価をした。ただ、授業が「わからない」や、授業の進むスピードが「速すぎる」と回答した生徒も2～3割程度いた。

4 仮説の設定

（1）仮説1：S（主語）とV（動詞）を文中から見つけるトレーニングをすれば、英文の語順に対する感覚が身に付くのではないだろうか。

（2）仮説2：英文をまとまりで理解するためには、文中にスラッシュ（／）をつけることがより効果的ではないだろうか。

（3）仮説3：フレーズ・リーディングという音読方法を習得させれば、本文の内容理解が高まるのではないだろうか。

5 計画の実践

- (1) 仮設1：1学期から2学期を通じて毎時間、英文のテキストにS（主語）とV（動詞）を記入させた。特に、V（動詞）には赤い線を引き意味も書くという作業を行ってきた。
- (2) 仮設2：1学期から2学期を通じて毎時間、英文のテキストに2種類のスラッシュを使用して、語句のまとまりと文の区切りを明瞭化させてきた。
- (3) 仮設3：1学期の後半から2学期には、スラッシュを注視しながらフレーズ・リーディングの反復練習を行い、音読を通じた本文理解に努めてきた。

6 実践の結果

1学期末と2学期末に実施した英語授業評価から、次のような結果が得られた。生徒数は習熟度別（少人数）クラスで行っているため19名である。

- (1) 英文の語順について

語 順	見つけられる	だいたい見つけられる	あまり見つけられない	わからない
1 学期末	0	7	10	2
2 学期末	0	7	7	5

- (2) 英文の区切りについて

区切り	できる	まあまあできる	少ししかできない	できない
1 学期末	0	2	9	8
2 学期末	2	2	3	12

- (3) 本文の理解について

理 解	できる	まあまあできる	少ししかできない	できない
1 学期末	1	8	8	2
2 学期末	0	9	7	3

7 結果の検証

- (1) 英文の語順について

S（主語）とV（動詞）を記入させる作業を通じて、英文の語順に対する感覚がある程度身についてきていると思われるが、まだまだ不十分であることが明らかになった。

- (2) 英文の区切りについて

英文を理解する1つの方法として文に区切りを（／）をつけさせてきたが、まだ2割程度の生徒しかできておらず、今後も継続して取り組んでいく必要がある。

- (3) 本文の理解について

1学期・2学期とも、フレーズ・リーディングという音読練習を通じた内容理解については、あまり変化がみられなかったが、シャドーイングなどを合わせた授業は楽しかったようである。

8 成果と今後の課題

英語力の基礎・基本の定着と向上には、基本的な語順（S＋V～）の徹底が不可欠であると思いこの研究に取り組んできたが、率直に言って、成果はまだでていないと言わざるを得ない。課題としては、3学期もこの研究を続けるとともに、単語・熟語などの基本的な語彙力のアップとその定着に努めなければならない。